

# ワ訪米阻止学生共斗に結集し マクニラス未端カラの決起で

太学改革斗争の「総括」を踏まえ、佐前訪米阻止斗争を圧倒的決起で斗おう。

全市大の尊友諸君々

1888年以降の全國學國斗争は、大賈法流産以降、口大協白主規制路線を通じて、太学に對してからめて来た攻撃に対し、その攻撃を學内において阻止し得るだけの条件を如何に創出するかと云ふ点としてあつたことは再三に渡て明瞭化にした点である。されば、太学改革斗争は、甲に小数の「貴族ある學界」を相手にするものではなくして、「アヌ未端カラの思想決定にまえられてこそヨリうるのである。我々は々々なる斗争を前に算えて行くの夕々、一の回の大賈法流產にわたりては、太学改革斗争の勝利が成りあつたからこそ、それは大賈法流產の勝利の因縁は切つて離はれてゐることも見える。換言するまゝ、太学改革斗争を中止とする運動に影響に現われてゐる様子に、その回とりわけ全英斗に、最近まである二つあつて、それはこの回とりわけ全英斗に、最近までアヌ未端カラの思想決定に影響してゐる様子に、畢竟に之が走る大賈法流產とは創出しえつたのであつて、畢竟は畢竟と出来つつも、そこに結果として部分をさし履むる所は畢竟と出來てゐる。併しして太学改革斗争を算の内と見なすに、即ちにこそ太学改革斗争を算の内と見なすに、一そくねらんとするのである。

10.4の株主會へ一席算化の中にあつて太学改革斗争と自身の展望は、太学当局の居置きと、その居置きを許したもの斗争主体における動向の類似とに一定程度対等なり。又に「アヌ未端カラの思想決定に、一定程度困難なり。」と要請されてゐることと、一体問題にする内容と斗争の趣合とを打つて、斗争主体の定義化を計つてゆくのとを照らすに、あることである。

そこで何の事かとは、言つまでもなく訪米阻止斗争

に対する斗争であり、しかも全国主要産業の余り

である。なる程裏を返すと、アヌ未端カラの思想決定の下生人民的態度を示すと踏まえ、マクニラス未端カラの圧倒的決起ともっておればならない。

訪米阻止学生共斗に結集し、課題と基本戦術の一冊と通帯しておだう。

訪米阻止斗争の意義は、日英貿易、日英貿易の問題を解決化させざる所以であることを示す。それは、10.23号に於ける明治は「日本に輸出するモノと輸入するモノとの間に、その根柢を構成するに於ける問題を如何に解決して行くか」という事であることは言つまでもない。それと同時に、その根柢を構成するに於ける問題を如何に解決して行くか、それは、10.23号に於ける明治は「日本に輸出するモノと輸入するモノとの間に、その根柢を構成するに於ける問題を如何に解決して行くか」という事である。併し、これは、10.23号に於ける明治は「日本に輸出するモノと輸入するモノとの間に、その根柢を構成するに於ける問題を如何に解決して行くか」という事である。併し、これは、10.23号に於ける明治は「日本に輸出するモノと輸入するモノとの間に、その根柢を構成するに於ける問題を如何に解決して行くか」という事である。

本日、午後（大集会）

11/2

二之